

投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 宮川 耕二 (主幹兼国道係長 大江 泰廣)	内線	4 3 6 2 (4 3 7 4)
------	-------------------	---------------------	---------------------------------	----	------------------------

事業種目	道路事業	事業名		事業区間		総事業費	3 9 億円
		国道 1 7 6 号 広野バイパス		三田市広野 ～加茂		内用地補償費	2 2 億円
所在地		事業採択年度	着工年度	完成予定 年度	進捗率 (内用補進捗率)	約65%(約67%)	
三田市広野～加茂		H 7	H 7	H 2 0	残事業費	1 4 億円	
事業の目的				事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> 国道 1 7 6 号の三田市広野から加茂に至る区間は、幅員狭小で線形不良であるため、一部をバイパスで整備するとともに、渋滞の著しい交差点付近を拡幅することにより、安全で円滑な交通を確保する。 国道 1 7 6 号は、丹波地域と阪神間を結ぶ重要な幹線道路であり、この交通機能を強化することにより、地域間交流を促進し、地域の発展に寄与する。 				道路改築事業 L = 1,260m 広野工区：L = 780m、橋梁 1 箇所 加茂工区：L = 480m、橋梁 1 箇所 【計画幅員】6.5(16.0)m (2 車線 + 両側歩道) 【現況幅員】6.0(7.0)m (2 車線 + 歩道無し) 【計画交通量】13,000 台 / 日 【現況交通量】12,889 台 / 日 (H11 交通センサ) 【負担割合】国：5.5 / 10、県：4.5 / 10			
進捗状況		事業効果を早期に発現させるため、広野工区に集中投資し、平成 1 2 年度に（新）広野橋を供用するなど、平成 1 4 年度までに上井沢交差点の改良を含めて、広野工区を完成させた。 平成 1 4 年度から加茂工区の設計・測量を開始し、現在、用地買収を進めている。 平成 1 7 年度までに用地買収を完了、平成 1 8 年度に加茂大橋（延長50m）及び橋梁前後の改良工事に着手し、平成 2 0 年度完成予定である。					
評価視点		評価結果の説明					
(1)必要性 安全・安心の確保		<ul style="list-style-type: none"> 当該区間は、幅員が狭く、曲線半径 25mの急カーブが 2 箇所（広野工区、加茂工区、各 1 箇所）あり、平成 1 3 年には死亡事故も発生（加茂工区）している。この線形不良箇所をバイパス整備で解消することにより、安全で安心な道路交通が確保できる。 歩道を整備することにより、歩行者や自転車の安全が確保される。 					
渋滞の解消		<ul style="list-style-type: none"> 国道 1 7 6 号は、県内ほぼ全区間が、兵庫県地域防災計画において緊急輸送路に位置付けられており、緊急車両の円滑な走行が確保できる。 					
地域の活性化		<ul style="list-style-type: none"> 舞鶴若狭自動車道などの高規格幹線道路と一体となって広域的な交通ネットワークを形成する国道 1 7 6 号の機能強化を図ることにより、地域間交流を促進し、観光や産業の発展に寄与する。 					
(2)有効性・効率性		<ul style="list-style-type: none"> 加茂工区についても、事業に対する地元住民の合意が図られており、用地買収等、事業が順調に進んでいるため、平成 2 0 年度完成に向けた工事の実施が可能である。 費用便益比 B / C = 1 . 5 					
(3)環境適合性		<ul style="list-style-type: none"> 渋滞を解消することで、沿道の生活環境が改善される。 歩道に植樹帯を設置し、景観形成に努めている。 					
(4)優先性		<ul style="list-style-type: none"> 2 つのバイパスからなる事業であり、事業効果を早期に発現させるために、北側の広野工区を先行して整備してきた。南側の加茂工区も、地元の協力体制が整って用地買収も順調に進んでいることから、引き続き整備を進める。 					
再評価の結果	継続	左の理由	上記理由により事業継続が妥当である。				